

～生物多様性保全と持続可能な利用の推進を目指して～

第6回「生物多様性日本アワード」優秀賞の決定について

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役）は、厳正な審査のもと、第6回「生物多様性日本アワード」の優秀賞を決定しました。

－第6回「生物多様性日本アワード」優秀賞－

受賞団体名	プロジェクト名
株式会社アレフ	生物多様性に配慮した持続的なお米の仕入れ活動
世界遺産白神山地 ブナ林モニタリング調査会	世界遺産白神山地ブナ林の100年モニタリング
認定NPO法人 穴塚の自然と歴史の会	生物多様性の保全と環境教育
愛知県岡崎市立生平小学校	つくろう、野鳥の楽園「バードピア生平」 －愛鳥や里山保全活動を通じた自然との共生を図る児童の育成－
株式会社コクヨ工業滋賀	ヨシでびわ湖を守るリエデンプロジェクト

「生物多様性日本アワード」は、生物多様性の保全と持続可能な利用の推進を目的として、国連生物多様性条約事務局とのパートナーシップ協定のもと実施しています。本アワードは、2010年に生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が名古屋で開催されるのを契機に、2009年に創設した国内賞で、当財団の設立20周年を記念して2010年に創設した国際賞「The MIDORI Prize for Biodiversity（生物多様性みどり賞）」と隔年で開催しています。

第6回を迎えた本年は72件のご応募があり、審査委員会での厳正な審査の結果、顕著な功績のある5団体を顕彰します。9月26日には国際連合大学（東京都渋谷区）において授賞式を開催し、優秀賞の表彰にあわせ、傑出したプロジェクト1件をグランプリとして発表します。また授賞式では、各受賞団体による活動内容のプレゼンテーションを予定しています。

当財団は、本アワードにより生物多様性に関するさまざまな取り組みを主流化させるとともに、いのちあふれる美しい地球を次代に引き継ぐため、今後も環境保全活動に取り組んでまいります。

【第6回「生物多様性日本アワード」概要】

主催：公益財団法人イオン環境財団

後援：環境省、国連生物多様性の10年日本委員会

応募資格：日本国内の団体・組織・企業・個人（複数の団体・組織による共同の取り組みを含む）

対象活動：生物多様性の保全、生物多様性の持続可能な利用、生物多様性の普及・啓発

顕彰内容：グランプリ 1件 副賞200万円

優秀賞 4件 副賞100万円

授賞式：〈日時〉9月26日（木）14：00～18：30

〈場所〉国際連合大学 ウ・タント国際会議場

※その他詳細、ご出席のお申し込みは、当財団のホームページをご参照ください。

<https://www.aeon.info/ef/prize/award/ceremony.html>

スマートフォンからのお申し込みはこちら→



<受賞プロジェクト講評>

プロジェクト名	生物多様性に配慮した持続的なお米の仕入れ活動		
受賞団体名	株式会社アレフ	所在地	北海道
ハンバーグレストラン「びっくりドンキー」を中心としたレストランを展開する企業として、安全で高品質なお米を安定して供給するために、農薬使用を除草剤1回のみで制限した「省農薬米」という独自の基準を設け、契約栽培を行っている。またお客さまや従業員も参加しての「びっくりドンキー田んぼの生きもの調査」など、誰にでも親しみやすい生物多様性の普及活動を行っている。			
プロジェクト名	世界遺産白神山地ブナ林の100年モニタリング		
受賞団体名	世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会	所在地	宮城県
1999年から現在に至るまで白神山地のブナ林を対象としたモニタリング調査を20年間継続して実施。世界遺産に登録され、管理のために科学的な森林状況の把握が必要とされる地域で、研究者、一般市民、学生などの連携により、長期的に自然の変遷を追っていく活動は今後の継続が期待される。			
プロジェクト名	生物多様性の保全と環境教育		
受賞団体名	認定NPO法人宍塚の自然と歴史の会	所在地	茨城県
地域の文化や自然に根ざした生物多様性の保全活動に、1989年の団体設立時から取り組む。特に里山の自然の歴史的文化的側面についての市民調査は先駆性がある。また子どもから大人まで参加できる自然観察会や農業体験会の開催、地域の学校での環境教育の実施、里山の保全活動や農業の実践など、幅広い取り組みを行っている。			
プロジェクト名	つくろう、野鳥の楽園「バードピア生平」 —愛鳥や里山保全の活動を通じた自然との共生を図る児童の育成—		
受賞団体名	愛知県岡崎市立生平小学校	所在地	愛知県
全校62名の小規模な小学校において愛鳥活動を1982年から38年間継続しており、ESD(持続可能な開発のための教育)の最先端の教育・人材育成活動を実践している取り組みである。昨年はデジタル野鳥図鑑を作るなど新しい取組もある一方で親子3代このプログラムに参加している人もおり、地域の自然環境やそこに暮らす野鳥が、地域ぐるみの学びの場という大きな価値を創造している。			
プロジェクト名	ヨシでびわ湖を守るリエデンプロジェクト		
受賞団体名	株式会社コクヨ工業滋賀	所在地	滋賀県
琵琶湖のヨシ刈りや外来魚駆除などの活動を通じて地域の自然に関わり、その生物多様性の資源保護のために地域と連携した取り組みを行っている。更に、刈り取ったヨシの新たな活用を実現したエコ文具「リエデンシリーズ」を開発し、ビジネスで活かすという企業のCSV事業モデルとなる取り組みである。			

<審査委員>

(五十音順・敬称略)

委員長	岡田 卓也	公益財団法人イオン環境財団 理事長
委員	赤池 学	ユニバーサルデザイン総合研究所 所長
委員	岩槻 邦男	公益財団法人イオン環境財団 理事 東京大学 名誉教授・兵庫県立人と自然の博物館名誉館長
委員	鬼頭 秀一	東京大学 名誉教授・星槎大学 副学長
委員	黒田 大三郎	公益財団法人地球環境戦略研究機関 シニアフェロー
委員	香坂 玲	名古屋大学大学院 環境学研究科 教授
委員	南川 秀樹	公益財団法人イオン環境財団 理事・元環境省 事務次官

ご参考

■歴代グランプリ受賞の取り組み

第1回（2009年）「地域企業との協働による谷津田の保全」

NPO法人アサザ基金／白菊酒造株式会社／株式会社田中酒造店

茨城県にある湖沼「霞ヶ浦」の水質悪化により絶滅に瀕していた浮葉性植物である「アサザ」を再生するため、1995年より流域の学校、住民、農林水産業、企業、行政等が連携して実施する市民型公共事業「アサザプロジェクト」を開始しました。湖各地での自然再生や里山の保全、外来魚駆除事業、バイオマス事業などで持続可能な循環型社会の構築に取り組み、100年後にトキの舞う湖をめざしています。



第2回（2011年）「湿地環境の指標種としての雁類の保護およびその生息環境の保全・復元と人間との共生を目指す活動」

日本雁を保護する会

雁類の渡り経路を国際調査で解明し、国内生息地での調査結果をまとめ、保全・啓発・提言活動を実施しています。近年はその生息地である水田に注目し、雁類の生息地復元と水田の生物多様性を活かし、農業との共生をめざす「ふゆみずたんぼ」の提唱・普及に取り組んでいます。水田の湿地機能への関心を高める「^{かぶくりぬま}蕪栗沼・周辺水田」のラムサール条約湿地登録、ラムサールCOP10およびCBD・COP10での「水田の生物多様性に関わる決議」実現に貢献しました。



第3回（2013年）「津波に被災した田んぼの生態系復元力による復興」

NPO法人たんぼ

宮城県気仙沼をはじめ、塩竈、南三陸、岩手県陸前高田を中心に生態系の復元力を活用した自然農法のシステム（ふゆみずたんぼ）で津波被災地の田んぼの復興を実現しました。1,200名を超える多様なボランティアの参加により、手作業で田んぼの復興を試み、抑塩にも成功しています。また各地で、生物多様性、水質、土壌内の微生物の活性度調査などの科学的なモニタリング実施により現況を把握し、その結果、被災した年の秋から豊かな収穫を享受することができました。



第4回（2015年）「エゾシカの先進的な資源的活用促進事業」

一般社団法人エゾシカ協会

北海道でのエゾシカの適正な個体数管理が強く求められる中、シカ肉を適正に利用し、森林保全に還元する仕組みを作るため、2007年に厳しい衛生基準を満たす解体処理場の製品の認証制度を創設しました。2012年からは認証処理場で処理された肉の加工食品の認証制度をスタート。2015年からは肉の検査者となるシカ捕獲者の認証制度創設にも取り組んでいます。安心安全なシカ肉の流通により、森とエゾシカと人との適正な関係を築き、シカ肉の資源的価値の向上に貢献しました。



第5回（2017年）「高知県最南端柏島・島が丸ごと博物館（ミュージアム）」持続可能な里海づくり

NPO法人 黒潮実感センター

温帯域にありながら熱帯・亜熱帯域を凌ぐほどの生物多様性の宝庫である高知県柏島。その豊かな自然と、そこに住む人の暮らしとを「島がまるごと博物館（ミュージアム）」と捉え、海と人とが育みあう持続可能な里海モデルの創出を目指す活動に取り組んでいます。多様なステークホルダーが漁業や観光の視点から生物多様性に取り組み、保全と利活用の両立を実現しています。



■歴代受賞プロジェクト一覧

回/年度		団体名	受賞プロジェクト名	活動地域	団体所在地
第1回 2009年	グランプリ	NPO法人アサザ基金／白菊酒造株式会社 ／株式会社 田中酒造店	利用フィールド部門：地域企業との協働による谷津田の保全	茨城県	茨城県他
	優秀賞	財団法人 知床財団	保全フィールド部門：知床の生物多様性に関する取組	北海道	北海道
		NPO法人 農と自然の研究所	保全リサーチ部門： 「農」に着目した地域における生物多様性の保全のための活動	福岡県	福岡県
		鹿島建設株式会社	利用リサーチ部門： エコロジカルネットワークの研究と実践	首都圏 全国	東京都
		コウノトリ育むお米生産部会／JAたじま／NPOコウノトリ湿地ネット／豊岡市／兵庫県豊岡農業改良普及センター	保全プロダクト部門：「コウノトリ育む農法」とコウノトリ共生米	兵庫県	兵庫県
		積水ハウス株式会社	利用プロダクト部門：生物多様性保全を含む10の調達指針	全国	東京都
		中日信用金庫	保全コミュニケーション部門： 「生物多様性について考えてみませんか」定期的な取り扱い	愛知県	愛知県
		サラヤ株式会社	利用コミュニケーション部門：「ポルネオはあなたが守る！」キャンペーン	マレーシア 全国	大阪府
第2回 2011年	グランプリ	日本雁を保護する会	湿地環境の指標種としてのガン類の保護 およびその生息環境の保全・復元と人間との共生をめざす活動	宮城県	宮城県
	優秀賞	有限会社 熊谷産業	茅場の保全から茅葺屋根まで－ヨシ原と共に生きる－	宮城県	宮城県
		NPO法人 ビッキオ	クマ保護管理事業	長野県	長野県
		NPO法人 多摩源流こすげ	山梨県小菅村における多摩川源流大学を 中心とした源流域の自然保全活動と教育活動	山梨県	山梨県
		株式会社 野田自然共生ファーム	野田自然共生ファーム	千葉県	千葉県
第3回 2013年	グランプリ	特定非営利活動法人 田んぼ	津波に被災した田んぼの生態系復元力による復興	宮城県 岩手県	宮城県
	優秀賞	味の素株式会社	太平洋沿岸カツオ標識放流共同調査と 一連の協働・普及啓発活動	西日本太 平洋沿岸 地域	東京都
		中越パルプ工業株式会社	「竹紙（たけがみ）」の取り組み	九州等	東京都 富山県
		てるはの森の会	綾の照葉樹林プロジェクト	宮崎県	宮崎県
		ネイチャー・テクノロジー研究会 (東北大学大学院環境科学研究科)	ネイチャー・テクノロジー創出のシステム構築	全国	宮城県
第4回 2015年	グランプリ	一般社団法人エゾシカ協会	エゾシカの先進的な資源的活用促進事業	北海道	北海道
	優秀賞	株式会社伊藤園	「お茶で琵琶湖を美しく・お茶で日本を美しく」 プロジェクトを通じた生物多様性保全の取り組み	滋賀県 全国	東京都
		九州の川の応援団／九州大学島谷研究室	水辺環境の保全・再生の実践と地域活性化	福岡県 韓国等	福岡県
		NPO法人グラウンドワーク三島	市民力を結集してドブ川を多様な生き物がすむ 「ふるさとの川」に再生・復活	静岡県	静岡県
		気仙沼市立大谷中学校	大谷ハチドリ計画 (Ohya Hummingbird Project)	宮城県	宮城県
第5回 2017年	グランプリ	NPO法人 黒潮実感センター	「高知県西南端柏島・島が丸ごと博物館(ミュージアム)」 持続可能な里海づくり	高知県	高知県
	優秀賞	宮城県漁業協同組合	国際養殖認証の取得を通じた持続可能で高品質なマガキの養殖生産	宮城県	宮城県
		一般社団法人企業と生物多様性 イニシアティブ (JBI B)	企業における生物多様性主流化のためのツールやガイドラインの開発	東京都	東京都
		トンボはドコまで飛ぶかフォーラム	トンボはドコまで飛ぶかプロジェクト	神奈川県	神奈川県
		学校法人山陽学園 山陽女子中学校・高等学校 地歴部	瀬戸内海の海底ごみ問題の解決に向けての女子中高生の挑戦	岡山県	岡山県